

「全体に係る評価」と「単元に係る評価」

1. 基本的な考え方

NEW CROWNでは各学年の評価を、「全体に係る評価規準」と「単元に係る評価規準」という2つの評価規準を用いて行う。NEW CROWNの各レッスンは、原則的にGETのページとUSEのページの2部構成であるが、「全体に係る評価規準」は主にGETのページでの学習を評価対象にし、「単元に係る評価規準」は主にUSEのページでの学習を評価対象にする。

本稿はこの2つの評価規準の評価対象を、「指導に生かす評価（形成的評価）」と「評定につながる評価（総括的評価）」という評価目的の2分類に基づいて整理する。この評価目的の分類は、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校外国語）」（国立教育政策研究所，2011，p. 31）で用いられている分類である。また、中学校の通知表や生徒指導要録には、指導機能と証明機能の2つの働きがある。「指導に生かす評価（形成的評価）」は指導機能、「評定につながる評価（総括的評価）」は証明機能の働きをする。

2. 「指導に生かす評価（形成的評価）」と「評定につながる評価（総括的評価）」

NEW CROWNの「全体に係る評価規準」は、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の4観点で示してある。

ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」は、「基本的には、『話すこと』または『書くこと』の言語活動の観察の中で、『言語活動への取組』と『コミュニケーションの継続』について見ていく」としている。

まず、GETのページのDrillやPracticeでは、生徒の話す／書くことの活動への取組の様子を観察し、活動に積極的に取り組まない生徒が見られたら、教師は「C評価」などと補助簿に記入するのではなく、「指導に生かす評価」の考え方で、その場で個に応じた支援を行って、当該生徒の言語活動への取組が改善するように指導することが大切である。

一方USEのページについては、USE Speak、USE Write、USE Mini-projectの話す／書くことの活動に生徒が取り組んでいる様子を観察し、「言語活動への取組」や「コミュニケーションの継続」について、ABCのうちの「A評価」などと「評定につながる評価」を行い、その評価結果を教師の補助簿に記入する。

イ. 外国語表現の能力

「外国語表現の能力」のうちの「話すこと」「書くこと」の「全体に係る評価規準」は、「当該LESSONにおける文法のポイントを含む文を正しく話す〔書く〕ことができる」である。

GETのページで生徒は、Drill 3 SayやPractice 2 Speakの活動で、「文法のポイントを含む文」を話す練習をする。また、Drill 4 WriteやPractice 3 Writeの活動では、「文法のポイントを含む文」を書く練習をする。上の評価規準は、授業中に生徒がこうした練習に取り組んでいる最中に、「文法のポイントを含む文を正しく話す〔書く〕こと」ができていないかを観察し、「指導に生かす評価」を行うことを示している。

一方、実際のコミュニケーション場面に近い、まとまりのある発話や文章のなかで「文法のポイントを含む文」を正しく、かつ適切に話す〔書く〕ことができるかは、USE Speak、USE Write、USE Mini-projectの話す〔書く〕ことの活動について「単元に係る評価規準」に示す規準について、「評定につながる評価」を行う。

また、「読むこと（音読）」の評価について「全体に係る評価規準」は、「当該 LESSON の文章等を正しく音読することができる」と示している。*NEW CROWN*には様々なジャンルの文章があるが、スピーチ原稿や感想文のように日常生活で実際に音読される文章と、レポートや新聞のコラムのように黙読が普通の文章に分かれる。

USE Read の文章のうち、日常生活で音読されうる文章については、定期考査の前後に「音読テスト」などの正式な評価機会を設けて、「評定につながる評価」を行う。その際の規準は「単元に係る評価規準」に示してある。

一方、GET の左ページの短い文章や USE Read の文章のうち黙読が普通の文章は、「全体に係る評価規準」で評価する。こうした文章を音読させる目的は、その練習をとおして、生徒の発音・語彙・文法などの言語材料の習得を確かにすることにある。したがって教師は、そこでは「指導に生かす評価」を行い、生徒が英語の文章を繰り返し音読して言語材料を身につける過程を形式的に支援する。

ウ．外国語理解の能力

「外国語理解の能力」のうちの「聞くこと」「読むこと」の「全体に係る評価規準」は、「当該 LESSON における文法のポイントを含む文を正しく聞く〔読む〕ことができる」である。

生徒は GET の Drill 1 Listen と Practice 1 Listen で、「文法のポイントを含む文」を聞く練習をする。生徒はまた、GET の左ページの短い文章の中で、「文法のポイントを含む文」を読んで理解する練習をする。教師は先の評価規準を用いて、授業中に生徒がこうした練習に取り組んでいる様子を観察して、「文法のポイントを含む文を正しく聞く〔読む〕こと」ができていくかについて、「指導に生かす評価」を行う。

一方、生徒が実際のコミュニケーションの場面に近い、まとまりのある発話や文章のなかで「文法のポイントを含む文」を的確に聞く〔読む〕ことができるかについては、USE Listen と USE Read での聞く／読むことの活動について、「単元に係る評価規準」を用いて「評定につながる評価」をする。

エ．言語や文化についての知識・理解

「言語や文化についての知識・理解」についての「全体に係る評価規準」は、「当該 LESSON における文法のポイントやそこで扱われた語句・表現、発音・強勢・イントネーションについての知識」を扱うとしている。一方、この評価対象についての「単元に係る評価規準」は、例えば Book 1, LESSON 7 では、「言語についての知識 現在進行形に関する知識をみにつけている」と、「文化についての知識 英語のメールの書き方について理解している」を示している。

生徒は GET と USE の全ページで、文法、語句・表現、発音・強勢・イントネーションを理解し、練習し、身につける。音声については SOUNDS のコーナーでも学習する。こうした学びの評価は、中間テストや期末テストなどの、正式で一括的な評価機会に、「評定につながる評価」を行って、生徒の長期記憶への定着の程度を測る。

一方、言語材料の学びについては、毎時間の冒頭の小テストなどを、「指導に生かす評価」として継続的に実施し、生徒の知識の定着の程度を把握して、個に応じた指導に生かす。言語材料の習得は外国語学習の基礎・基本である。こうした形式的な学習支援が、生徒一人ひとりに英語の基礎・基本の学力を確かに定着させる指導のポイントになる。

「文化についての知識」を評価する場合、先の「英語のメールの書き方」のケースのように、特に言語に係る文化の場合には「評定につながる評価」を行う。一方、*NEW CROWN*の USE Read の文章には題材内容に深みのあるものが多く、それらの指導目標を各単元の「とびら」に示している（例：Book 1, LESSON 8 の「外国の中学校生活を知る」）。こうした広い意味での文化理解については、指導機能のため「指導に生かす評価」ととどめ、その評価結果を証明機能のための通知表や指導要録な

どで活用することはしない。

3. おわりに

以下に、これまで見た「全体に係る評価規準」と「単元に係る評価規準」の評価対象が、*NEW CROWN* のどのページの、どの活動の学習を対象とし、その評価を「指導に生かす評価（形成的評価）」と「評定につながる評価（総括的評価）」のどちらを目的として行うのが適切なのかを、観点や内容のまとまりごとに表に整理して示す。

表：NEW CROWN の評価対象

評価の観点(技能)		「指導に生かす評価(形成的評価)」 の評価対象	「評定につながる評価(総括的評価)」 の評価対象
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度		GET , Drill や Practice の活動	USE Speak ・ USE Write ・ USE Mini-project の話すこと[書くこと] の活動
外国語 表現の 能力	話すこと	GET , Drill 3 Say や Practice 2 Speak の活動	USE Speak ・ USE Mini-project の話すことの活動
	読むこと (音読)	GET の本文の音読の活動	USE Read の本文の音読の活動
	書くこと	GET , Drill 4 Write や Practice 3 Write の活動	USE Write ・ USE Mini-project の書くことの活動
外国語 理解の 能力	聞くこと	GET , Drill 1 Listen や Practice 1 Listen の活動	USE Listen の聞くことの活動
	読むこと	GET の本文を読むことの活動	USE Read の読むことの活動
言語や文化についての 知識・理解		GET ・ USE の全ページ，要点のまとめの SOUNDS の言語材料と文化	GET ・ USE の全ページ，要点のまとめの SOUNDS の言語材料と文化

「評定につながる評価」の評価対象である「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」の評価では、教科書の活動そのものではなく、対象となる教科書の活動とパラレルなタスクを行う。